

第5回ひろしまジュニア国際フォーラムの開催結果について

令和3年1月19日
国 際 課

1 要旨

令和2年11月29日(日)、12月6日(日)、12月13日(日)の3日間、オンラインで「第5回ひろしまジュニア国際フォーラム」を開催し、日本を含む14か国の高校生が5つのグループに分かれて討議・交流等を行い、広島宣言をとりまとめ発表した。

宣言文は、国連や外務省等の国際関係機関や県立学校等への送付や、SNS・ホームページ等による情報発信を行っているところである。

2 開催概要

- (1) 趣 旨 国内外の高校生等が国際平和についての討議や交流等を行い、平和のメッセージを世界に発信することを通じて、次の世代の人材育成を行う。また、平和の取組への賛同者拡大を図る。
- (2) 主 催 広島県
- (3) 開催期間 令和2年11月29日(日)、12月6日(日)、12月13日(日)の3日間
- (4) 開催方法 WEB 会議システム利用(オンライン開催)
- (5) テーマ 平和な世界の実現に向け私たちができること
(核兵器廃絶と復興・平和構築に向けた取組)
- (6) 参加者 高校生 計30名
○日本人高校生 15名(広島県14名、三重県1名)
○外国人高校生 15名

| 区 分 | 国 名 | 人数 |
|----------|--|-----|
| 友好提携先の推薦 | 四川省(中国)、ハワイ州(米国)、グアナフアト州(メキシコ) | 3名 |
| 上記以外 | 中国、米国、モンゴル、韓国、フィリピン、ベトナム、インドネシア、カンボジア、ラオス、マレーシア、タイ、ミャンマー | 12名 |

※中国・米国は2名ずつ参加のため、外国は13か国の高校生が参加。

(7) 日程

| 日 程 | 行 事 内 容 |
|-----------|--|
| 11月29日(日) | オープニング(知事挨拶)、チームビルディング、被爆体験証言聴講、講義・グループディスカッション【核兵器廃絶】 |
| 12月6日(日) | 講義・グループディスカッション【復興・平和構築】 |
| 12月13日(日) | 広島宣言の作成及び発表(別紙) |

3 ひろしまジュニア国際フォーラム開催の様子



(チームビルディング)



(被爆体験証言聴講)

第5回ひろしまジュニア国際フォーラム 広島宣言 主要な意見

参加高校生が5つのグループに分かれて討議し、その成果として各グループにおいて広島宣言としてまとめ、最終日の12月13日(日)に発表した。その主な意見は以下のとおり。

<核兵器廃絶>

① 核兵器廃絶に向けた課題

- ・適切な教育の不足により、多くの人々が戦争や核の脅威について認識できていない。
- ・権力者が自己中心的になり、また政府は自国のことを第一に考えており、国際協調は困難である。
- ・多くの国にとって核の脅威が抑止力となっている。他国への不信感や軍事力低下への不安から、核兵器廃絶に反対する国も存在する。核廃絶のため国家間の相互理解や連携強化を進める必要がある。

② 核兵器廃絶に向けた私たちの役割

- ・ソーシャルメディアで自分たちの考えを発信し、多くの人に核兵器のことを考えてもらう。
- ・核兵器が不必要であるという考えを広める。若者は政治を変える力は持たないが、声を上げることはできる。例えば、選挙や署名活動など。
- ・文化的な違い等を考慮し、地域ごとにチーム分けをした上で情報共有を行うシステムを構築する。
- ・人々が核被害について意識し続けるよう、被爆体験を伝え、被爆者への差別をなくしていく。
- ・より多くの人々が異文化に触れ、核兵器の現状について認識する機会を増やす。

③ 核兵器廃絶に向けた広島の役割

- ・平和の象徴としてあり続けるとともに、世界平和と核廃絶を推進していく。
- ・教育システムを現世代に適合したものとなるよう改める。(75年前の出来事を仮想体験できるVR技術、アニメ制作、クラスメイトともっと議論できる環境づくり等。)
- ・VR技術や動画を用いて被爆者の証言を世界の多くの人に届け、核兵器の潜在的脅威について関心を高める。
- ・情報発信に活用できる、広島での出来事や核兵器使用に関する資料を提供する。
- ・核廃絶について、より多くの人々が議論できる場を提供する。また、学生が自らの考えを表現しやすくするため、チャットグループを作成する。
- ・世界全体で信頼関係を構築するため、全ての連邦・地方政府に被爆体験を発信し、世界平和に向けた対話を開始するよう求める。
- ・原爆被害を受けた、原爆ドームや被服支廠などの建物を将来にわたり保存していく。
- ・核兵器や戦争の恐怖について人々の意識を高めるため、同様の苦しい経験をした都市と協力する。

<平和構築>

① 平和構築に向けた課題

- ・平和構築への理解が不足し、平和に対する考え方は人によって異なることを認識していない。
- ・先進国と途上国の間で、教育格差や生活水準格差の問題がある。自分とは異なる境遇の他国の人々への偏見をなくす必要がある。
- ・暴力と戦争の原因は、貧困と教育不足である。全世界で不平等や差別が存在するが、差別が続くことで市民の不平不満がたまり、それが大規模な紛争や戦争へと発展する可能性がある。
- ・身体的暴力だけでなく構造的暴力を止めなくてはならない。
- ・利己主義や自己中心的な考え方は平和構築において重要な課題である。
- ・新型コロナ感染拡大は、平和な社会を崩壊し、不景気や人種差別といった別の問題を作り上げてしまった。世界中で支援を必要とする国には手を差し伸べる必要がある。

② 平和構築に向けた私たちの役割

- ・若者の関心を喚起するため、Facebook や Instagram, Twitter のようなソーシャルメディアの運営会社に対し、だれもがアクセス可能な世界のニュースに関するコラムを追加するよう交渉する。
- ・ソーシャルメディアを通じて世界中の若者をつなぎ、またジュニアフォーラムのような国際会議に参加する。
- ・オンラインサービスを活用し、自分たち自身でこのようなフォーラムを開催する。実際に集まって議論するのも良い。
- ・平和構築に関するイベントやプログラム、セミナーなどに参加して、今世界で起こっていることを自分たち自身で学んでいく。また、世界中の人々の考えや価値観を受け入れる。
- ・今回のフォーラムで学んだことを地域で発表する。
- ・国際問題について関心を持ち、世界や自分の周りの人々の間での懸け橋として行動する。

③ 平和構築に向けた広島役割

- ・参加者が楽しいと思える平和構築のイベントを提供する。
- ・平和構築について、学校を対象とした特別なプログラムの開発をする。近い将来子供たちが世界平和への正しい道筋に気付けるよう、世界的な課題についての知識を増やす。
- ・若者が世界平和構築について提案した解決策に積極的に参加するよう促す。
- ・平和公園のガイドや平和構築に関するボランティア活動の推進など、平和活動を活性化する。
- ・広島の復興の事例は世界中の他の都市の見本となりえる。広島は他国の都市が関係を持ち協力するための橋渡し役となる。